

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	291000016		
法人名	社会福祉法人 三笠苑		
事業所名	グループホームサンライフ碓ヶ関		
所在地 (電話番号)	〒038-0101 青森県平川市碓ヶ関鯨森90-1 (電話) 0172-49-5070		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 2月 9日	評価確定日	平成 20年 3月 28日

【情報提供票より】(平成 20年 1月 20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	13人, 非常勤 2人, 常勤換算 14.225人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有( ) 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要( 1月 20日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 80 歳	最低	71 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	黎明郷、かせだクリニック
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設は自然豊かな土地に設置され、敷地も広く、行事、散歩、農園など様々な活動が出来る環境にある。また、同一敷地内に児童館があり、児童との交流の機会も多い。運動会などの合同の行事も行われており、入居者の生活の楽しみに繋がっている。  
建物内は明るく家庭的な雰囲気がある。開設時に事業所独自の理念を作り上げており、職員全員で入居者のケアや地域との交流に励んでいる。法人内の学習会が定期的開催されており、職員の育成にも取り組んでいる。入居者の生活歴を活かしたケアが日常的に提供されており、入居者の方は元気で明るい印象を受ける。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	初回評価につき、該当なし。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	初めての自己評価であった。職員全員で自己評価に取り組みながら、現状のケアを振り返り、改善に向けて取り組むとともに、職員は評価の意義、ねらいについて理解を深めることが期待される。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には入居者、入居者家族、市の職員、民生委員、法人役員等が参加し2ヶ月に1回開催され、ホームの取り組みや行事の報告等が行われている。又、グループホーム内の視察も行われており、その都度意見を頂き改善に向けて取り組んでいる。今後は外部評価の結果を報告し、改善に向けた話し合いが行われ有効活用されていく事が期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	家族の面会時に状態報告や要望を聞きだす働きかけがされている。各フロアに意見箱も設置されている。今後は家族会も開催される予定との事であり、今以上に家族の意見や苦情を引き出す取り組みが検討されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	殆どの入居者が地元出身である為、地域住民との交流は活発である。地域行事への参加や買物などの支援もされている。同一敷地内に児童館が設置され、季節毎に運動会等の合同行事が行われている。近隣への外出(買い物、散歩など)も積極的に行われており、地域への溶け込む努力がみられている。

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員皆で話し合い、「地域との連携を図り、落ち着いた雰囲気の中で家庭的なサービス提供に努め、目配り、気配り、心配りをし、安全に生活していただけるように支援します」と事業所独自の理念をついている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日理念を唱和し、業務の中で気付いたことは改善を図るよう毎日の申し送りの際に話し合いがされている。理念は玄関や職員室前に掲示されており、いつでも確認できるようにしてある。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	入居者が地元の方である為、家族や親類はじめ、近所の方や友人が多数来所されている。地域の祭りへの参加や併設している通所介護や児童館の利用者との交流を図っている。天気の良いときは、近隣の散歩をするなど地域の方とのふれあいがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>今回が初めての自己評価・外部評価である。外部評価の結果と自己評価を照らし合わせ、今後、課題改善に取り組む予定である。</p>		<p>自己評価においてはケアの見直しや振り返りを行うためにも職員全員で取り組むことが望まれる。評価の意義、ねらいについて全職員が理解を深め、今後更なる質の向上に向けた取り組みが期待される。</p>
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回会議を開催している。会議の構成員以外にも出席していただき(行政関係や地域の方)、活発な意見交換がされている。入居者の方の家族会をつくってはと要望があり、今後取り組むこととしている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>日常の業務で課題があれば、相談や確認の為市の担当者とやりとりをしているが、市との協議体制では地域ニーズの共有などが不足している。</p>		<p>市担当者と事業所共に地域ニーズの共有やサービスの実態の把握により、よりよい協働関係やサービスの提供が図られる為、継続的な働きかけが望まれる。</p>
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>以前、権利擁護を利用された入居者がおり、市や社協と連絡を取りながら行った経験がある。パンフレットや資料は常備されており、いつでも活用できるようにしてある。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>学習会にて身体面・精神面での虐待について学ぶ機会があり、虐待防止に関する理解を深め、配慮されたケアの実践に取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>本人・家族が納得が得られるよう十分な説明と話し合いを行った上で、入居できるよう取り組んでいる。</p> <p>入院期間等による解約については1ヶ月と決められているが利用者、家族の状況について十分話し合い、期間を延長する等、再入居が出来るように配慮されている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時に随時、状態報告している。状態変更時は直ぐに電話連絡している。出納帳は2部作成し、月に1回必ず家族のサイン等を貰うようにし、家族へ1部渡している。来所が困難な家族には請求書と一緒に送付し、確認していただいている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時、意見や要望の聞き取りを行い、ケアプランや業務改善に反映させている。又、各階入り口付近に意見箱を設置するなど、環境も整備されている。</p>		<p>今年の夏までには家族会を設置予定。今後、更に意見、要望を引き出し、サービス向上に向けた更なる取り組みが期待される。</p>
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が長期休暇に入る場合などは、補充採用したり、法人本部と調整し入居者へ不安や負担を与えないよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部で毎月学習会を開催している。各事業所でテーマを決めて、参加している。又、事業所内では日頃から相談しあったり、OJTを活用し職員の育成に取り組んでいる。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内でのグループホーム間では毎月管理者会議を開催し、情報収集や意見交換をしている。		他事業所との意見交換から得られる情報を活用できるよう交流を深めることが望まれる。交流により日ごろの仕事の悩みを解決できたり、緊急時の連携がスムーズにできることが期待される。
↑					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族に見学していただいてから、サービス利用を開始している。可能であれば本人にも見学してもらうよう勧めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	敷地が広く、農園があり職員とともに農作業を行っている。その際には、職員が中心になるのではなく、入居者が中心となり、やり方を聞きながら行っている。また、食事の片付け、洗濯たたみなども入居者と一緒に行うようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメント手法にセンター方式が導入され、生活歴、職歴、趣味等の記載がされており、職員全員が把握出来るように取り組んでいる。認知症の進行により言葉が出てこない場合は、行動パターンなどの把握に努め、時には家族から情報を得ながら個々にあったケア提供に努めている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式のアセスメント項目から、必要な項目を集めたアセスメント様式を作成し、入居者本人や家族の希望を取り入れながら、ケアプランを作成している。身体機能面に限らず、一人ひとりの日常生活を考慮したケアプランの内容となっている。ケアプランは個別ケースに管理されており、職員が随時確認できるようにしている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎にケアプラン会議を行い見直しを行っている。定期的見直し以外にも、状態の変化により随時見直しを行い、本人、家族と十分な話し合いを持ちケアプランを変更している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居者の外泊や家族の方の宿泊など要望に対応している。通院においても家族が対応できない場合にはホームで対応している。</p> <p>同法人の訪問看護ステーションとの契約により医療連携体制も整っており、健康管理、及び急変時対応等、幅広く対応できる体制である。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時のかかりつけ医の受診を継続できるよう支援している。定期受診以外にも状態に応じ、随時家族と連絡を取りながらの受診も対応している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所内での終末期ケアの経験はまだない。日頃からターミナルケアについて考えておくようにと職員へ話しているが、体制作りまで至っていない。		今後、事業所でのターミナルケアの希望が無いとも限らない。日頃から家族・医療との連携がとれているため、何かあった際の対応方針の共有を図る為の取り組みや体制作りが望まれる。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	47	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては、入居時に同意書を交わしている。個人の記録に関しては、他者の目に触れないよう管理されている。入浴時の同姓介護の要望にも出来るだけ対応している。		
24	49	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所で取り決めた日課はあるが、入居者の方々はホールで過ごしたり、自室で休まれたりと思いに過ごされている。また職員は一人ひとりに合わせた支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の下ごしらえや片付けを入居者と一緒に行っている。食事中は介助が必要な方にさりげなく付き添っている。</p>		<p>食事中、後片付け(洗い物)の音が幾分気になった。落ち着いた雰囲気ですぐに食事が出来る環境が望まれる。</p>
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>週2回の入浴日は設定しているが、希望に応じてシャワー浴や、夏季は近隣の足湯へ出かけるなど工夫がされている。又、法人内の事業所にある温泉へ出かけるなど対応している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>過去の生活体験の中から、畑作り・裁縫・編み物など出来る範囲で、役割を持たせ行っている。編み物が出る方には、入居者全員分のマフラーを編んでもらい通院時着用したり、又、地域の文化祭に展示するなど生きがいに繋がるよう支援している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>週2回のショッピングや、今まで利用していた理・美容店への外出、近隣の散歩など一人ひとりの要望にあわせ支援している。</p>		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束についての学習会に参加したり、資料を準備し、身体拘束による弊害を理解したうえでケアを行なっている。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関にはボタン式の自動ドアを設置している。徘徊者には職員が付き添い、落ち着かれるまで散歩するなど支援している。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回消防訓練実施している。夜間訓練は職員が自宅で待機しているところから開始するなど、緊急時の連絡体制も含めた内容である。毎月、避難階段の昇降練習も入居者と一緒に実施している。又、災害時に地域の方の避難を受け入れられるよう非常食や毛布を常備している。</p>		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士の資格を持っている職員が献立作成し、それに基づいて食事を提供している。入居者の嚥下状態に合わせ、食事形態を変更し提供したり、嗜好に合わせた代替品も準備し支援している。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症対応マニュアルを基に、日常的に感染症の予防に努めている。マニュアルの見直しも行われており、勉強会も開催され、職員への周知徹底がなされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p>					
<p><b>(1) 居心地のよい環境づくり</b></p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間には自然の採光が差し込み明るい雰囲気がある。ソファやテレビの配置や雑誌が置かれており、のんびり過ごせるよう配慮されている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には使い慣れた家具や家電が持ち込まれ、使いやすいよう配置している。備え付けのベッドは、一人ひとりの身体状況にあわせベッドの位置を変えられるようにしてある。転倒の危険がある方には、スノコを敷いて布団の高さを変えるなど配慮されている。</p>		

 は、重点項目。